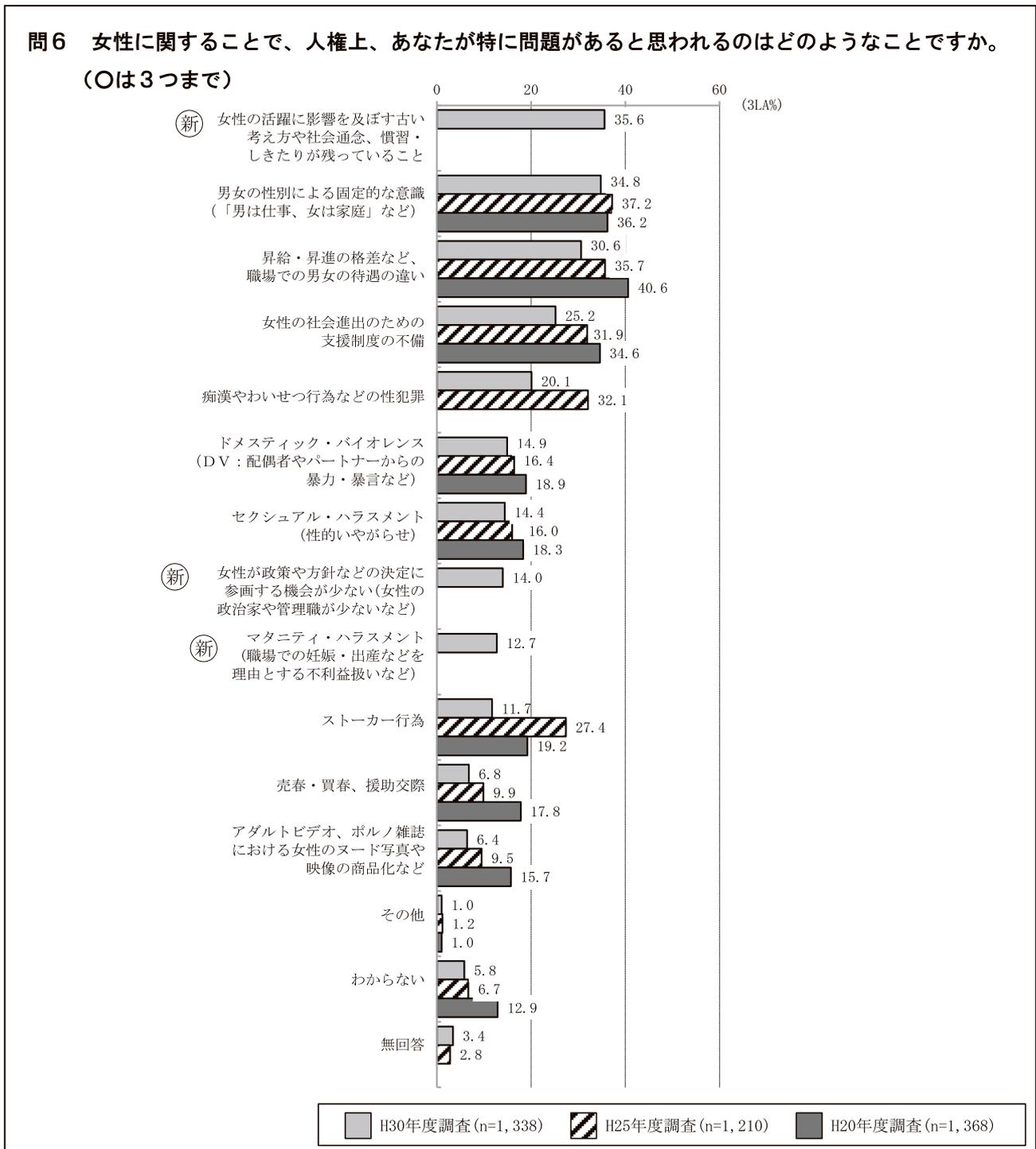


## 第2章 個別の人権問題に関する意識

### 1 女性の人権について

■「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」が「男女の性別による固定的な意識」をわずかに上回って最も高くなっている。

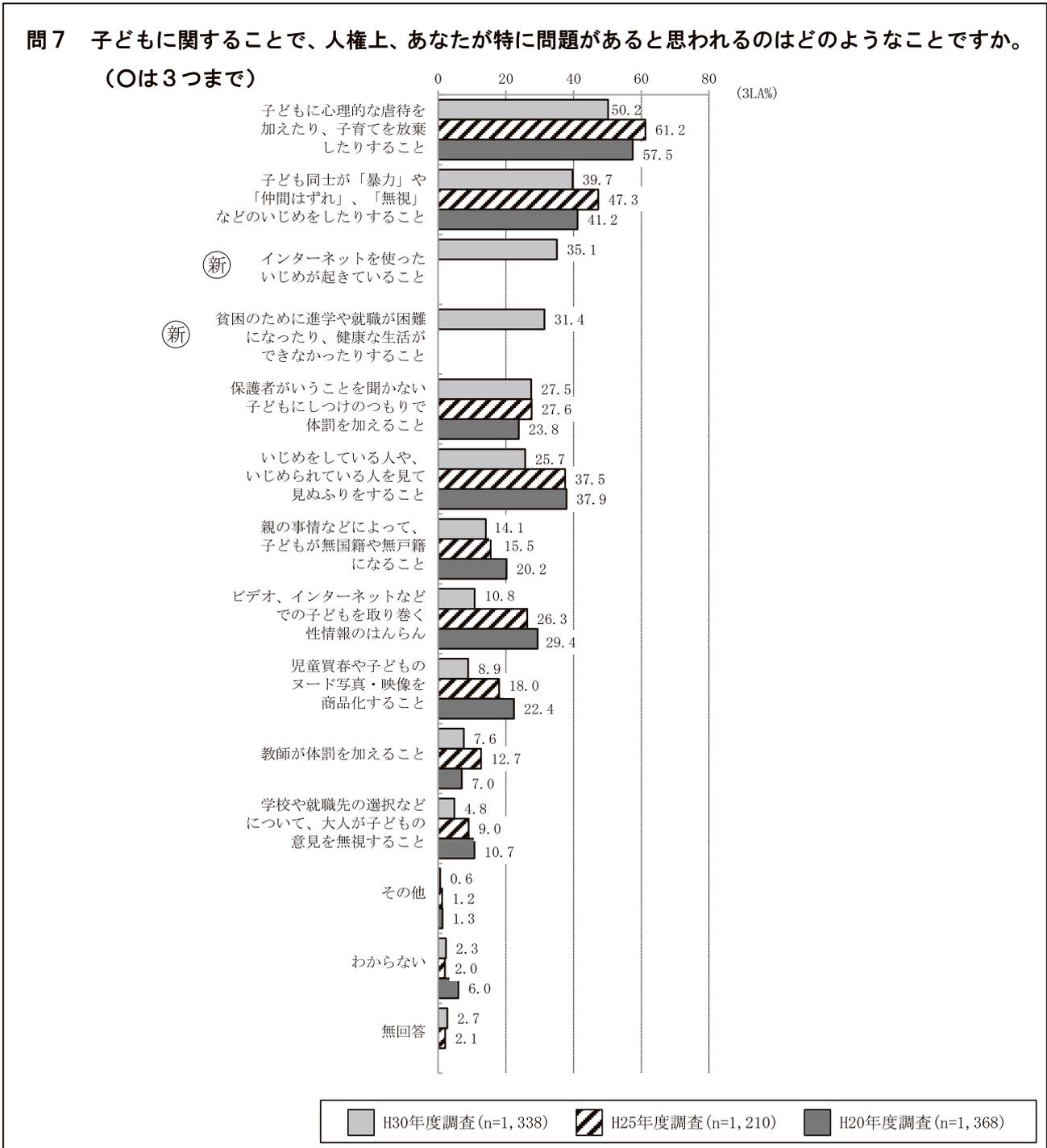


女性に関する人権上の問題をみると、「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」が35.6%で最も高く、次いで「男女の性別による固定的な意識 (男は仕事、女は家庭 など)」(34.8%)、「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」(30.6%)、「女性の社会進出のための支援制度の不備」(25.2%)の順となっている。

参考 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」2015(平成27)年9月施行

## 2 子どもの人権について

■H25年度調査同様、「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること」が最も高く、「子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをしたりすること」が続く。



子どもに関する人権上の問題をみると、「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること」が50.2%で最も高く、次いで「子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをしたりすること」(39.7%)、「インターネットを使ったいじめが起きていること」(35.1%)、「貧困のために進学や就職が困難になったり、健康な生活ができなかったりすること」(31.4%)などの順となっている。

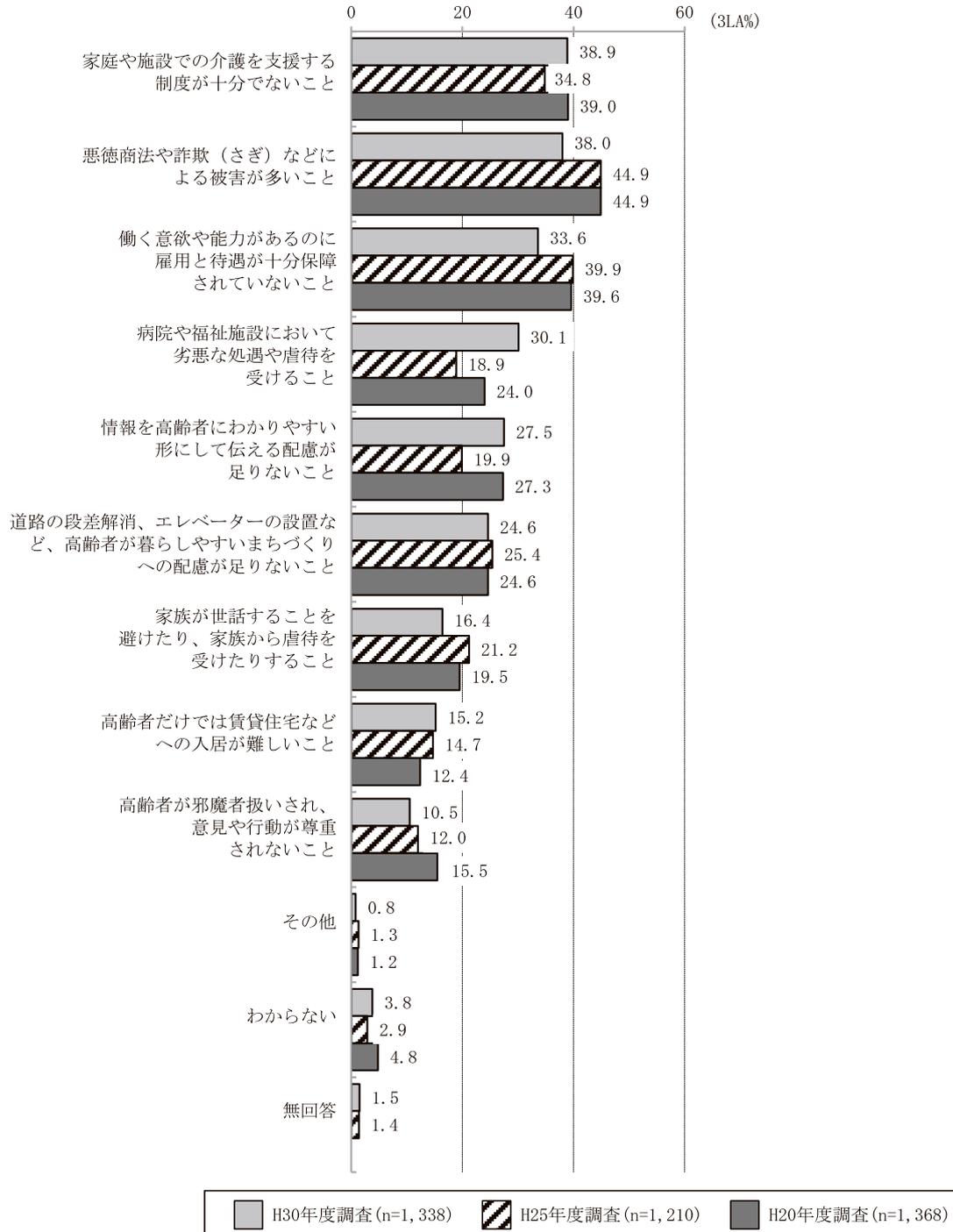
参考1 「いじめ防止対策推進法」2013(平成25)年9月施行

参考2 「子どもの貧困対策の推進に関する法律(子ども貧困対策法)」2014(平成26)年1月施行

### 3 高齢者の人権について

■「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でない」が38.9%で最も高く、「病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」が、H25年度調査よりも11.2ポイント高くなっている。

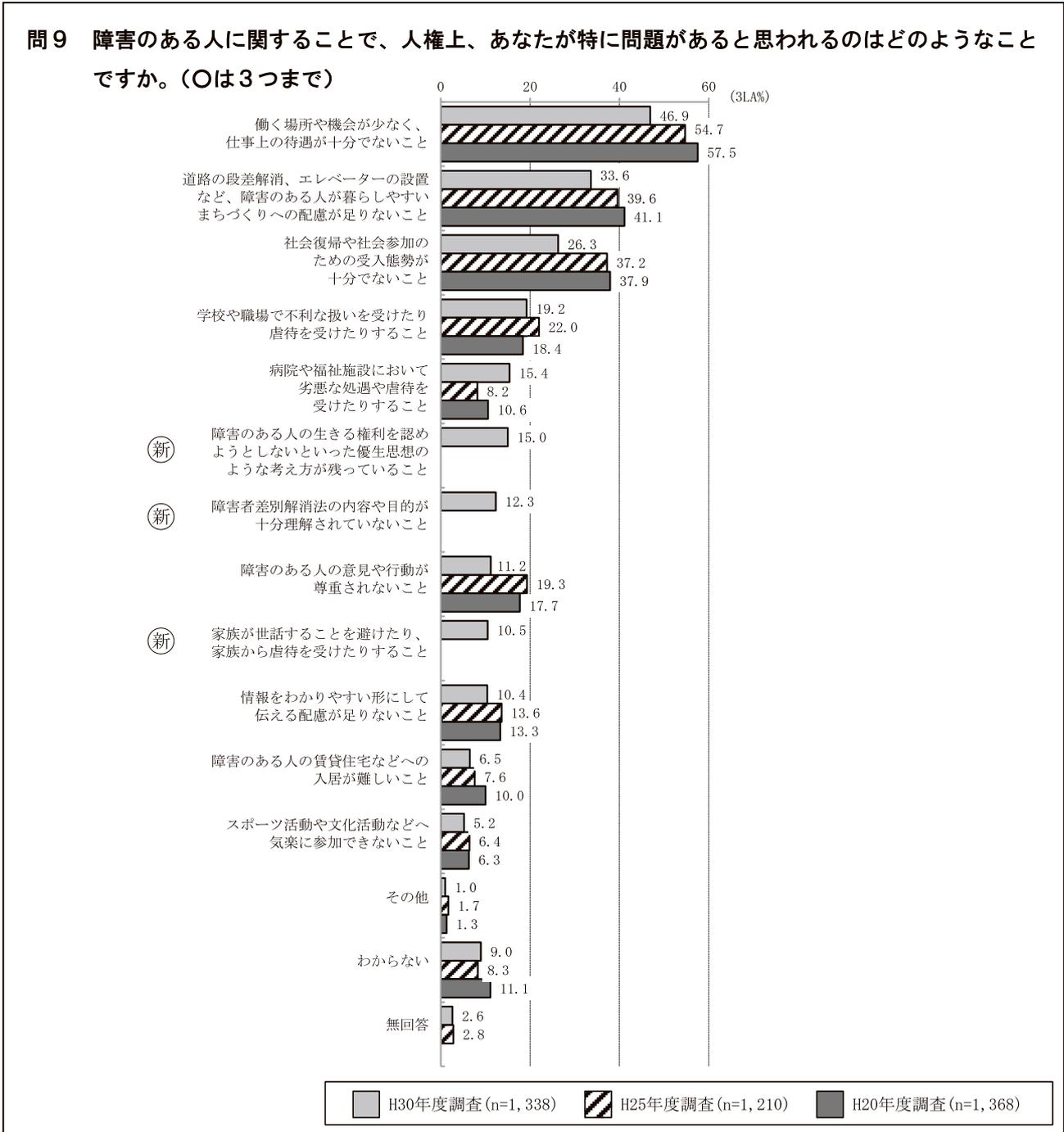
問8 高齢者に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。  
(○は3つまで)



高齢者に関する人権上の問題をみると、「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」が38.9%で最も高く、次いで「悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと」(38.0%)、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと」(33.6%)、「病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」(30.1%)の順となっている。

#### 4 障害のある人の人権について

■上位3項目の順位はH20年度調査、H25年度調査と変わらないが、割合については3つの新項目の影響が考えられる。一方、「病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けたりすること」ではH25年度調査に比べて高くなっている。



障害のある人に関する人権上の問題をみると、「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと」が46.9%で最も高く、次いで「道路の段差解消、エレベーターの設置など、障害のある人が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと」(33.6%)、「社会復帰や社会参加のための受入態勢が十分でないこと」(26.3%)の順となっている。

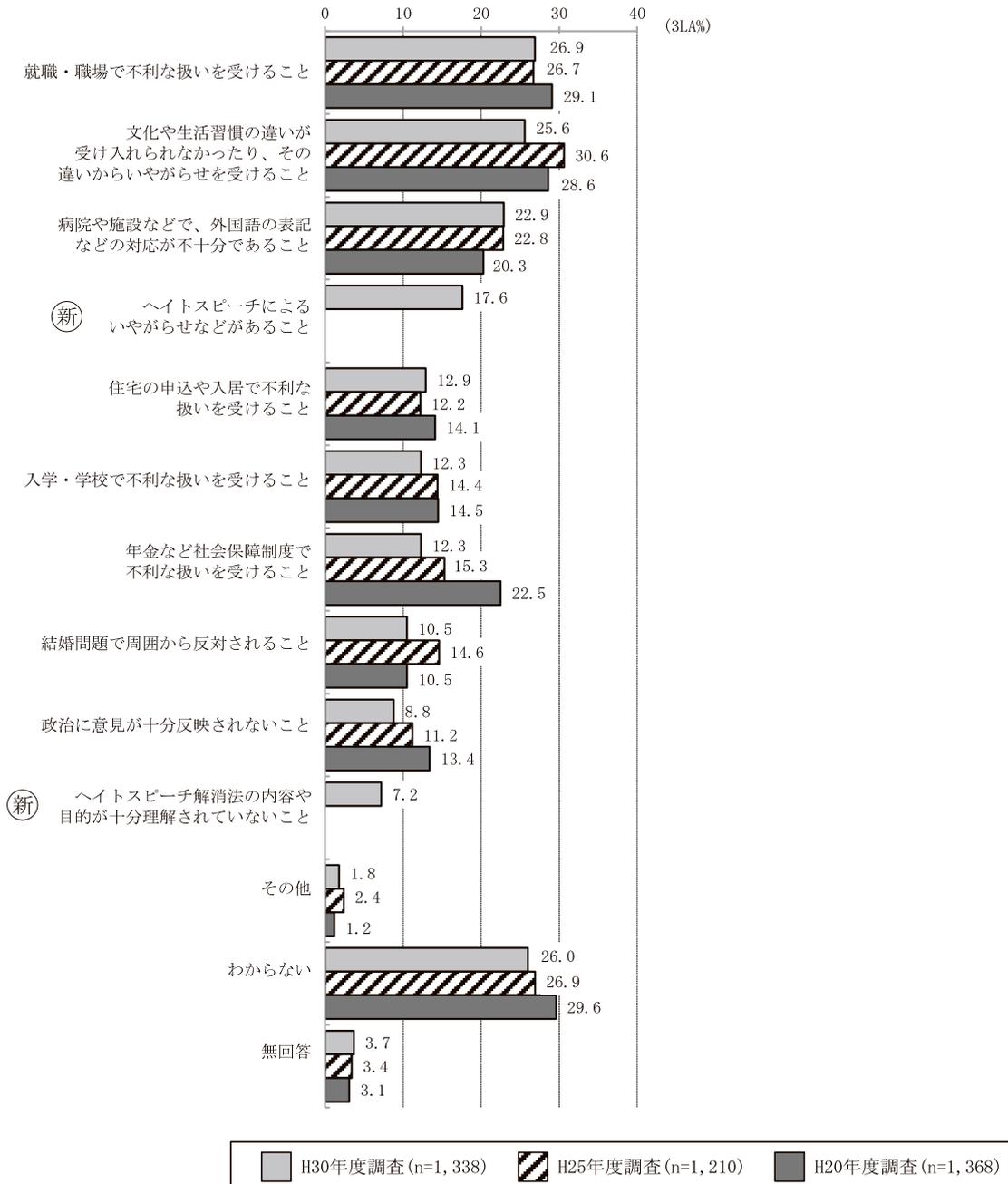
参考1 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」2016(平成28)年4月施行

参考2 「障害者の雇用の促進に関する法律の一部を改正する法律（合理的配慮の提供義務等）」2016(平成28)年4月施行

## 5 日本に居住している外国人の人権について

■「就職・職場で不利な扱いを受けること」が26.9%で最も高く、今回追加された「ヘイトスピーチによるいやがらせなどがあること」が17.6%で4番目に高くなっている。

問10 日本に居住している外国人に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)



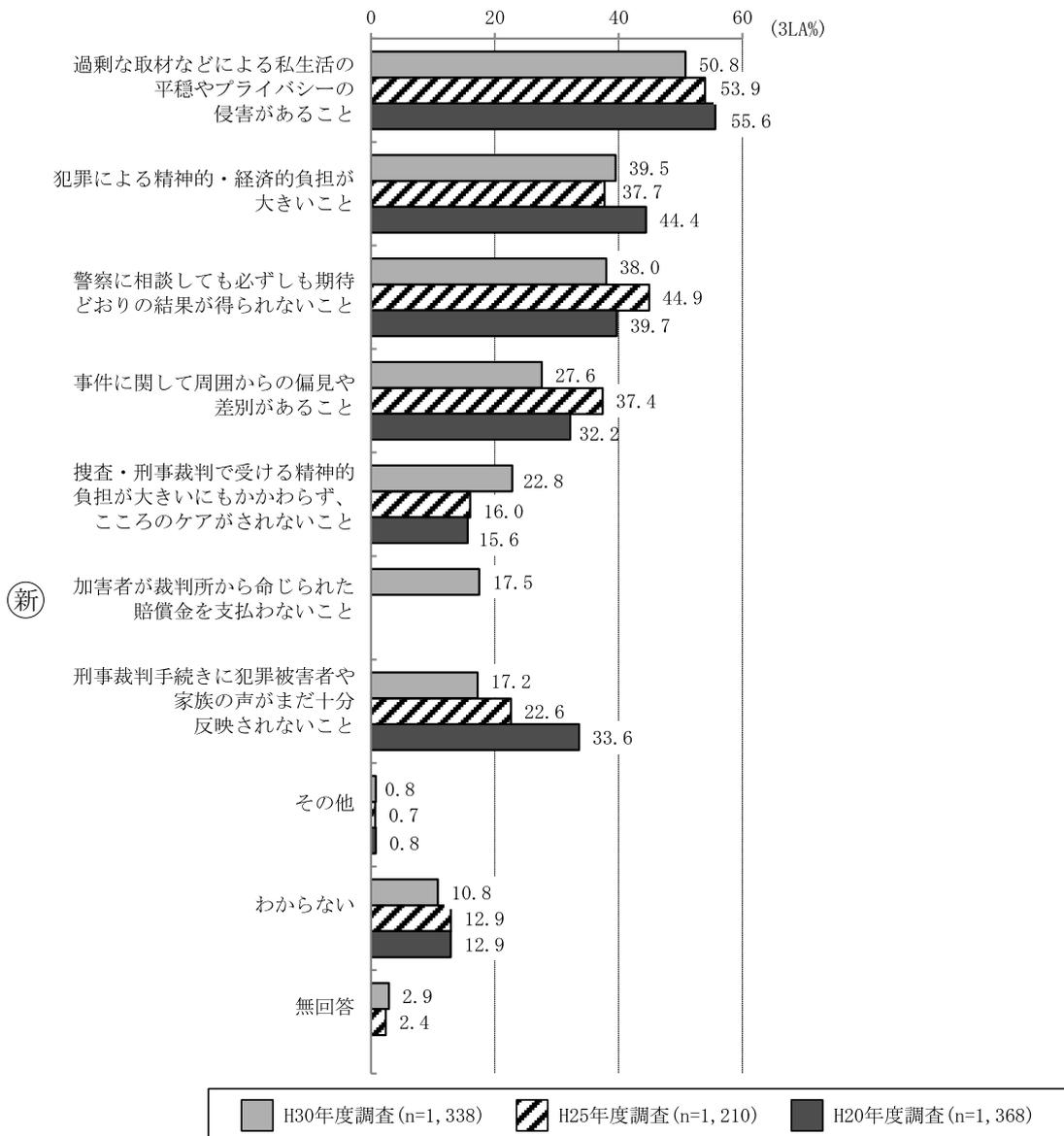
日本に居住している外国人に関する人権上の問題をみると、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が26.9%で最も高く、次いで「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること」(25.6%)、「病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分であること」(22.9%)、「ヘイトスピーチによるいやがらせなどがあること」(17.6%)の順となっている。

参考 「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組みの推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）」2016(平成28)年6月施行

## 6 犯罪被害者やその家族の人権侵害について

■H20年度、H25年度、今年度と「過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること」を半数以上の人々が問題として挙げている。

問11 犯罪被害者の方やその家族の人権侵害について、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

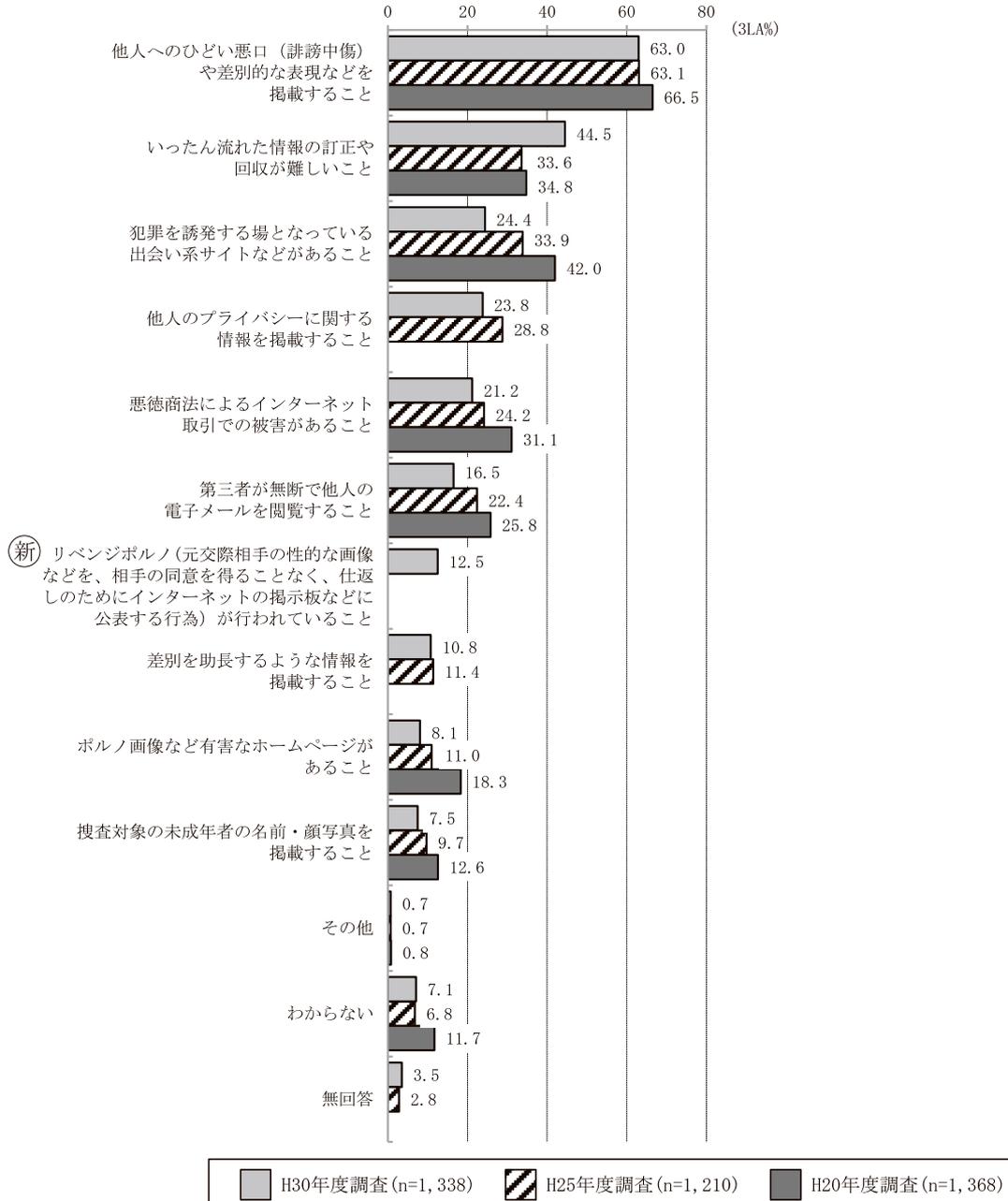


犯罪被害者やその家族に関する人権上の問題をみると、「過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること」が50.8%で最も高く、次いで「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」(39.5%)、「警察に相談しても必ずしも期待どおりの結果が得られないこと」(38.0%)の順となっている。

## 7 インターネットを悪用した人権侵害について

■H20年度調査、H25年度調査に続き、「他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などを掲載すること」の高さが目立っている。

問12 インターネットを悪用した人権侵害について、あなたが特に問題があると思われるのはどのようなことですか。（○は3つまで）



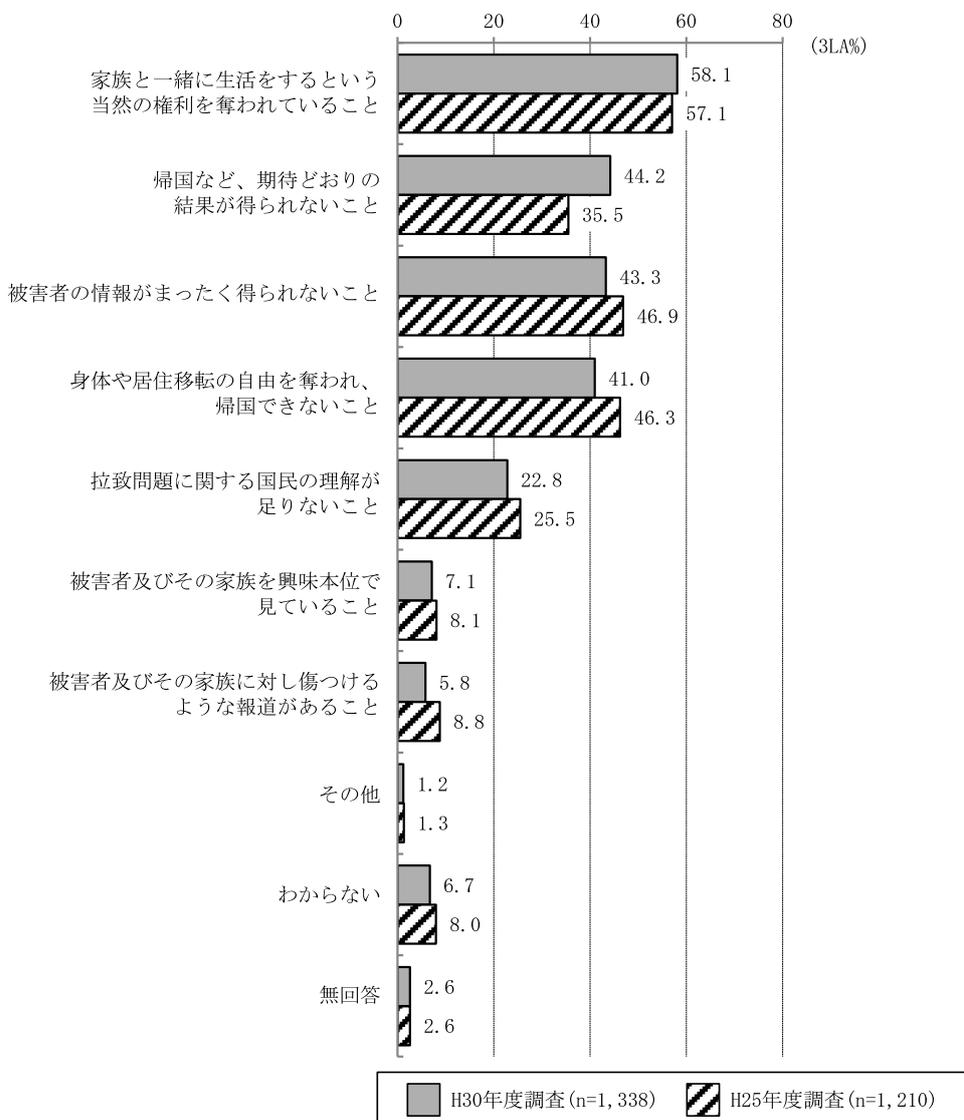
インターネットを悪用した人権上の問題をみると、「他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などを掲載すること」が63.0%で最も高く、他の項目を引き離している。以下、「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」（44.5%）、「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」（24.4%）、「他人のプライバシーに関する情報を掲載すること」（23.8%）、「悪徳商法によるインターネット取引での被害があること」（21.2%）と続いている。

参考 「私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律（リベンジポルノ防止法）」2014(平成26)年11月公布

## 8 北朝鮮当局によって拉致(らち)された被害者等の人権問題について

■「家族と一緒に生活をするという当然の権利を奪われていること」が58.1%で、H25年度調査と同様に最も高く、次いでH25年度調査より8.7ポイント高くなった「帰国など、期待どおりの結果が得られないこと」が続く。

問13 北朝鮮当局によって拉致(らち)された被害者等に関し、あなたは現在、特にどのような人権問題が起きていると思いますか。(〇は3つまで)

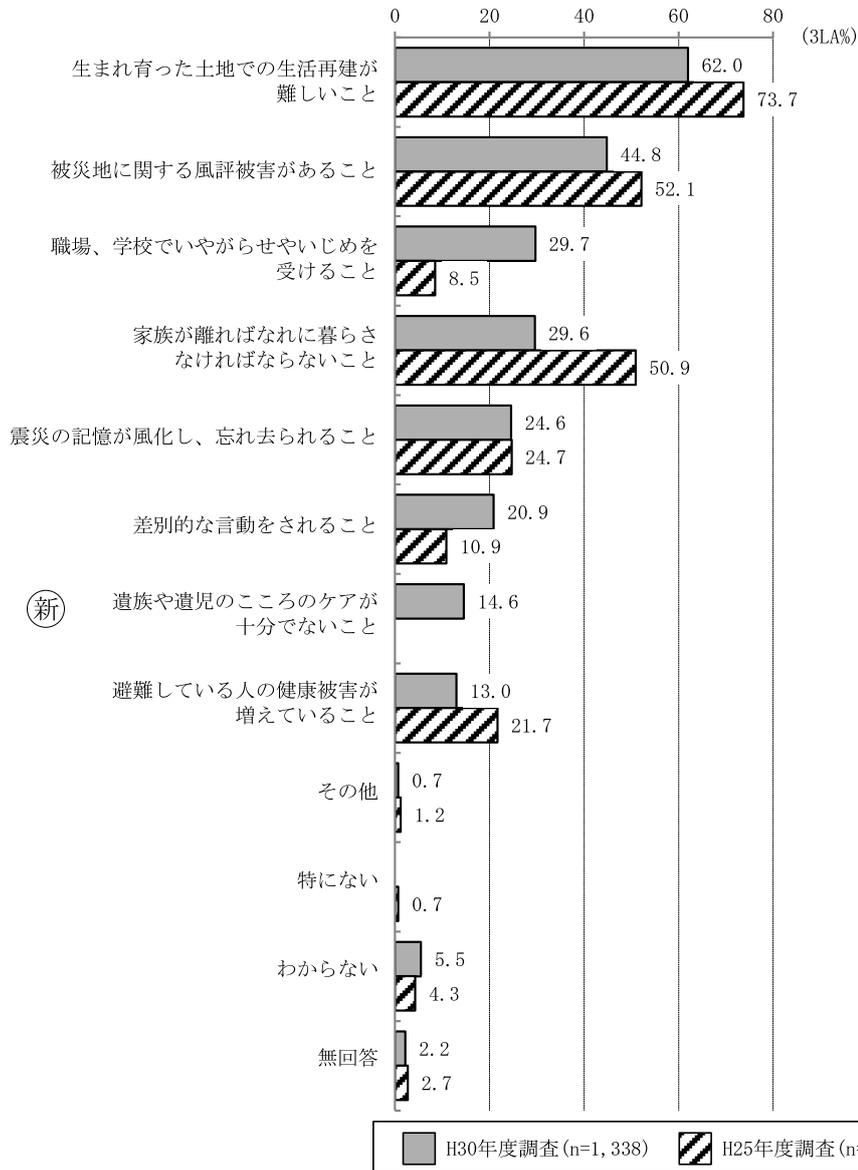


北朝鮮当局によって拉致された被害者等に関する人権上の問題をみると、「家族と一緒に生活をするという当然の権利を奪われていること」が58.1%で最も高く、次いで「帰国など、期待どおりの結果が得られないこと」(44.2%)、「被害者の情報がまったく得られないこと」(43.3%)、「身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと」(41.0%)の順となっている。

9 東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生による人権問題について

■H25年度調査よりも11.7ポイント低くなっているものの、「生まれ育った土地での生活再建が難しいこと」が62.0%で最も高く、次いで「被災地に関する風評被害があること」が44.8%、21.2ポイント高くなった「職場、学校でいやがらせやいじめを受けること」が29.7%と続く。

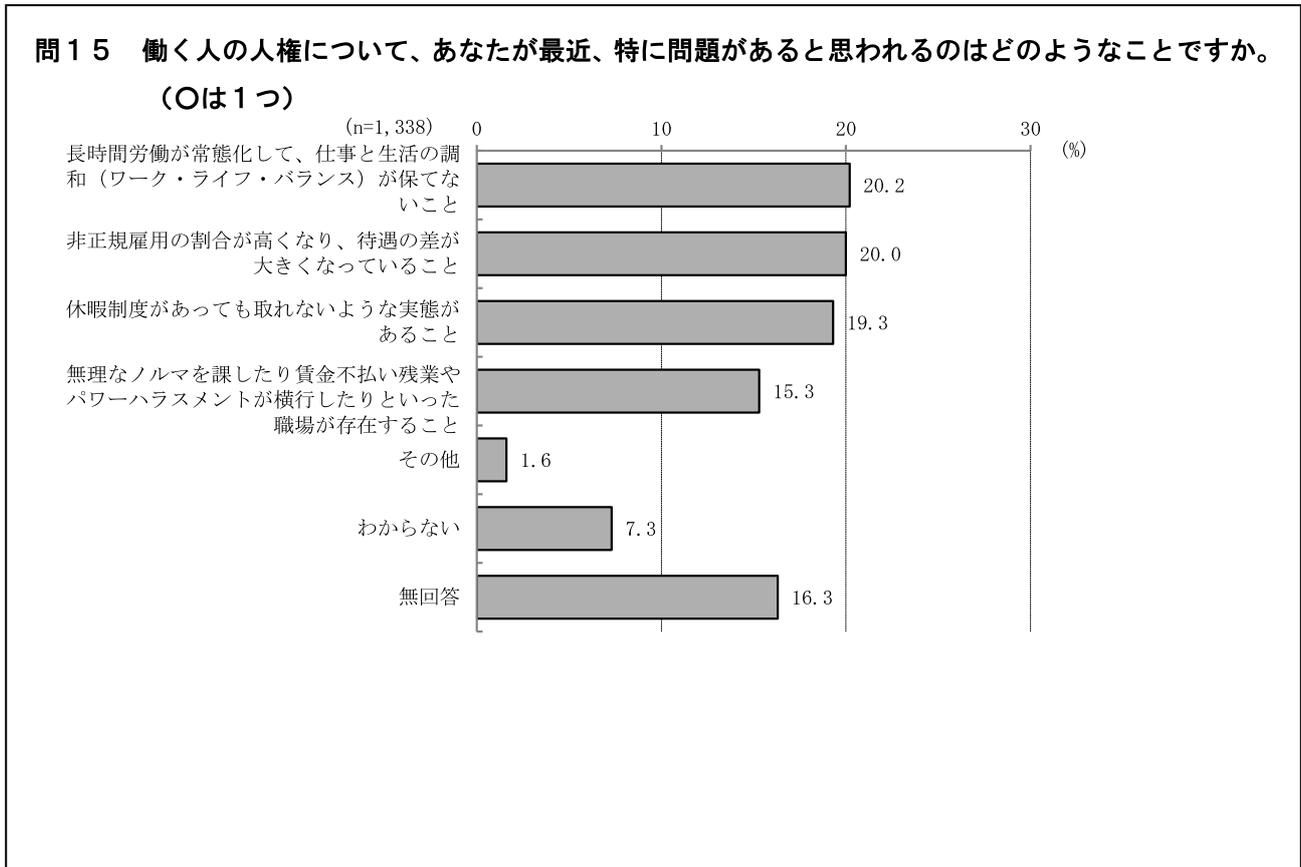
問14 東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生により、あなたは現在、特に被災者にどのような人権問題が起きていると思いますか。(〇は3つまで)



2011(平成23)年3月に発生した東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生による人権上の問題をみると、「生まれ育った土地での生活再建が難しいこと」が62.0%で最も高く、次いで「被災地に関する風評被害があること」(44.8%)、「職場、学校でいやがらせやいじめを受けること」(29.7%)、「家族が離ればなれに暮らさなければならないこと」(29.6%)の順となっている。

## 10 働く人の人権について

- 「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和が保てないこと」が最も高く、次いで、「非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっていること」、「休暇制度があっても取れないような実態があること」が続く。

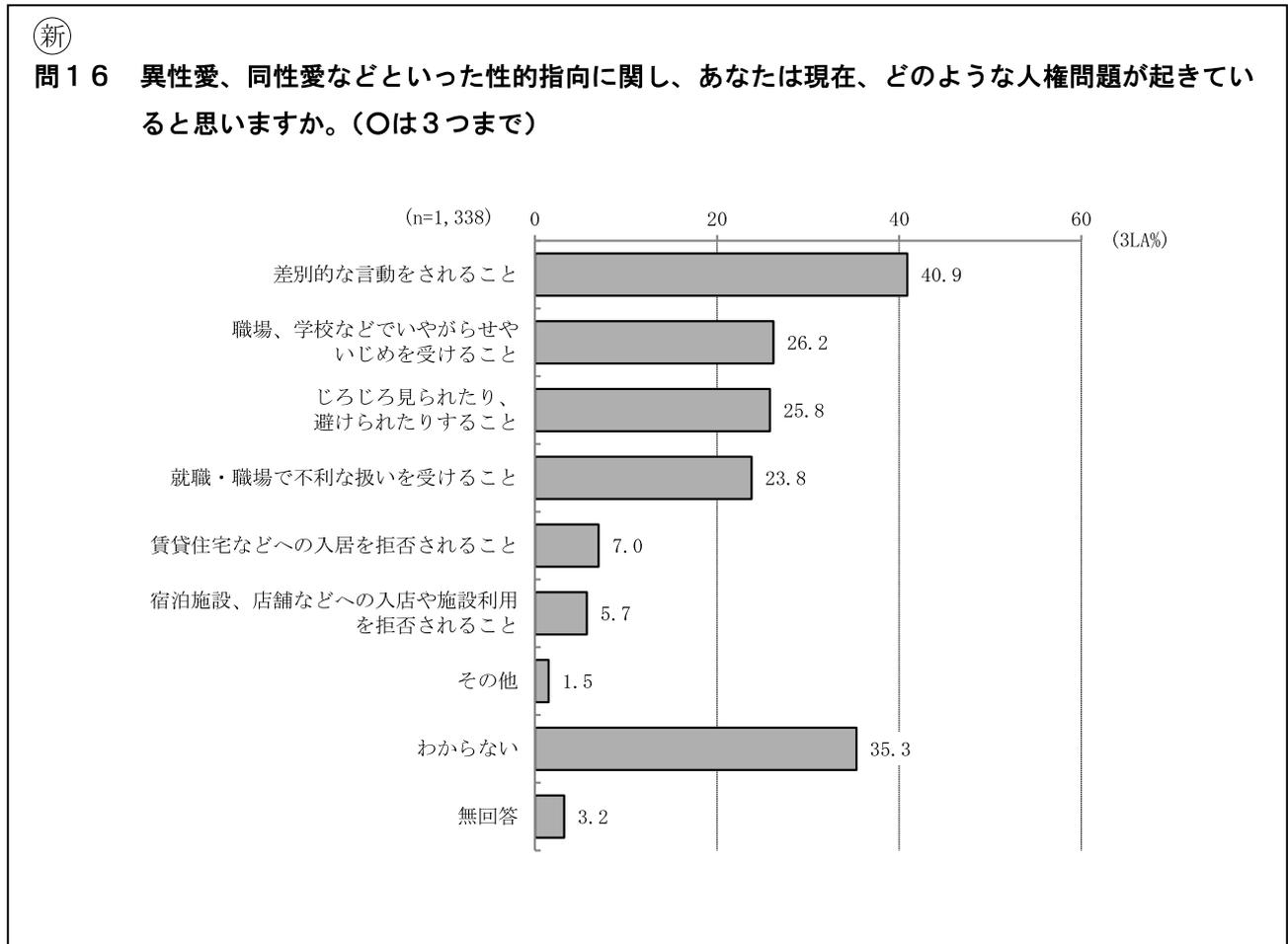


働く人に関する人権上の問題をみると、「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が保てないこと」が20.2%で最も高く、次いで、「非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっていること」（20.0%）、「休暇制度があっても取れないような実態があること」（19.3%）、「無理なノルマを課したり賃金不払い残業やパワーハラスメントが横行したりといった職場が存在すること」（15.3%）の順となっている。また、「わからない」の割合が7.3%となっている。

## 11 性的指向及び性同一性障害者に関する人権問題について

### (1) 性的指向に関して、今起きている人権問題

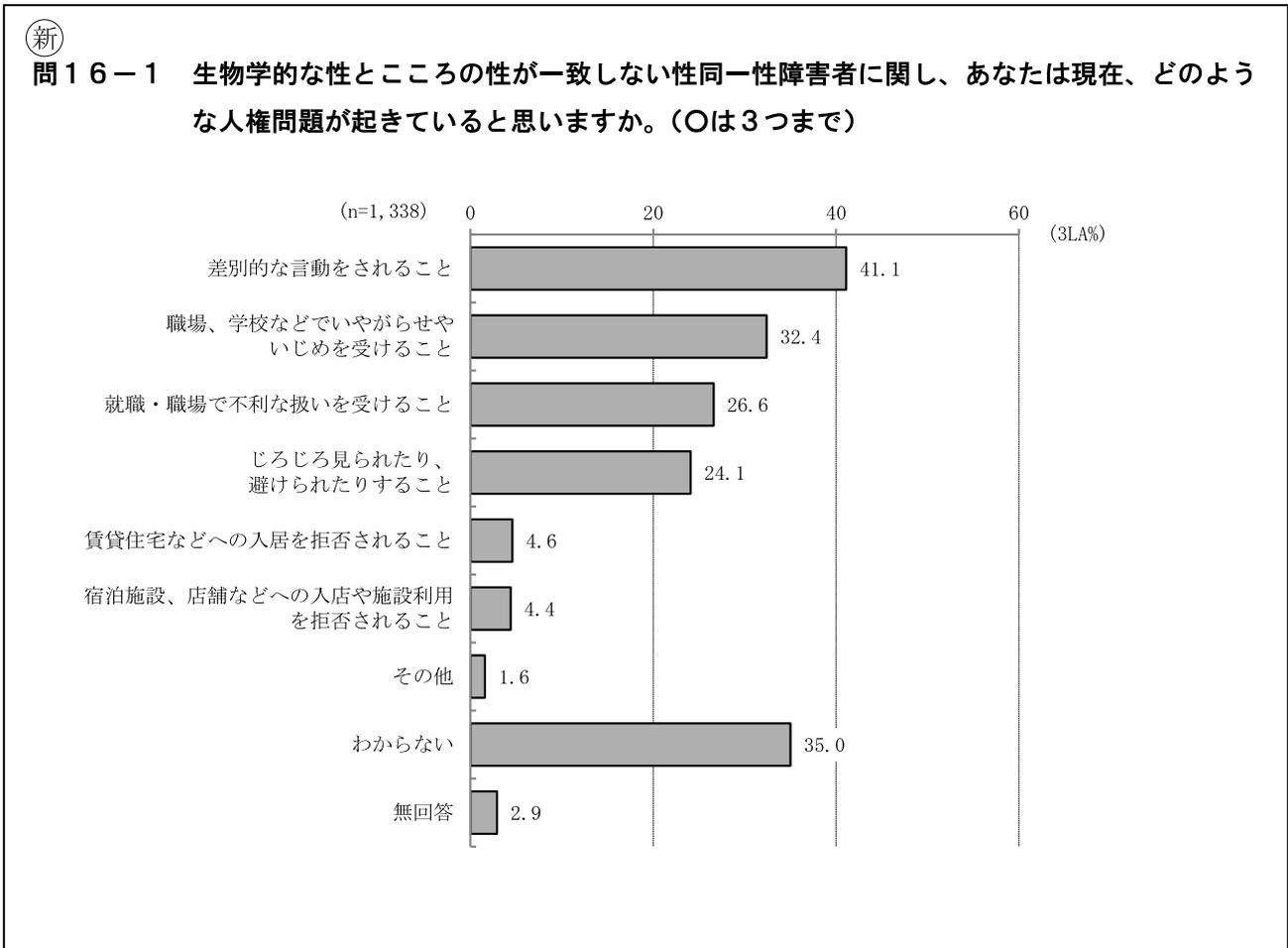
- 「差別的な言動をされること」が40.9%と最も高く、次いで「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が約26%で続くが、「わからない」も35.3%と高くなっている。



今回の調査から新たな設問として加えた性的指向に関する人権上の問題についてみると、「差別的な言動をされること」が40.9%で最も高く、「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」(26.2%)、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(25.8%)、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(23.8%)の順となっている。また、「わからない」の割合が35.3%となっている。

## (2) 性同一性障害者に関して、今起きている人権問題

■「差別的な言動をされること」が41.1%で最も高く、次いで「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」が32.4%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が26.6%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が24.1%の順で続き、「わからない」も35.0%と高くなっている。

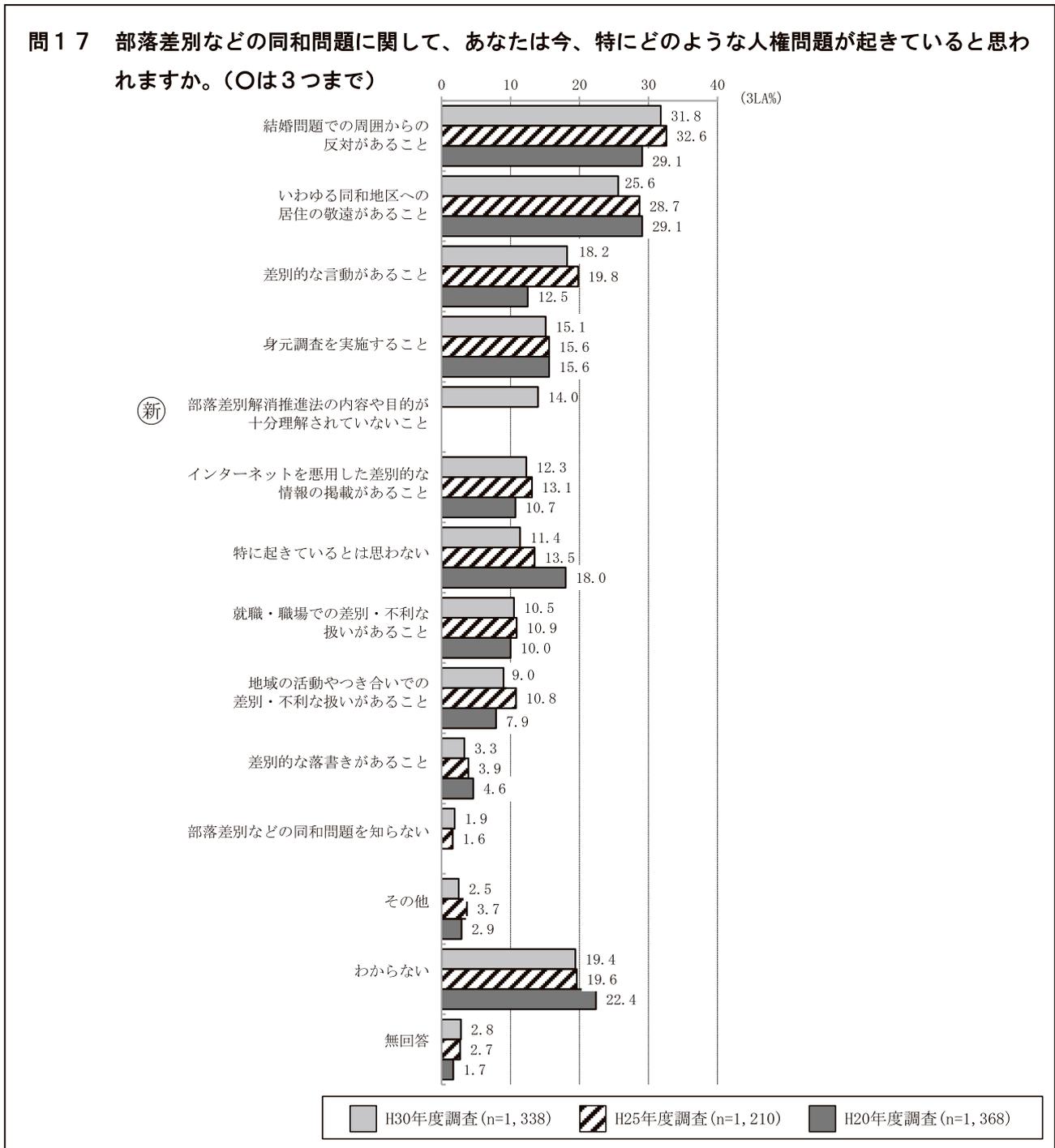


今回の調査から新たな設問として加えた性同一性障害者に関する人権上の問題についてみると、「差別的な言動をされること」が41.1%で最も高く、「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」(32.4%)、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(26.6%)、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(24.1%)の順となっている。また、「わからない」の割合が35.0%となっている。

## 12 部落差別などの同和問題について

### (1) 部落差別などの同和問題に関して、今起きている人権問題

■上位4項目はH25年度調査と同じで、割合が若干低くなっているものの大きな差はない。今回、追加された「部落差別解消推進法の内容や目的が十分理解されていないこと」は、14.0%で5番目に高くなっている。



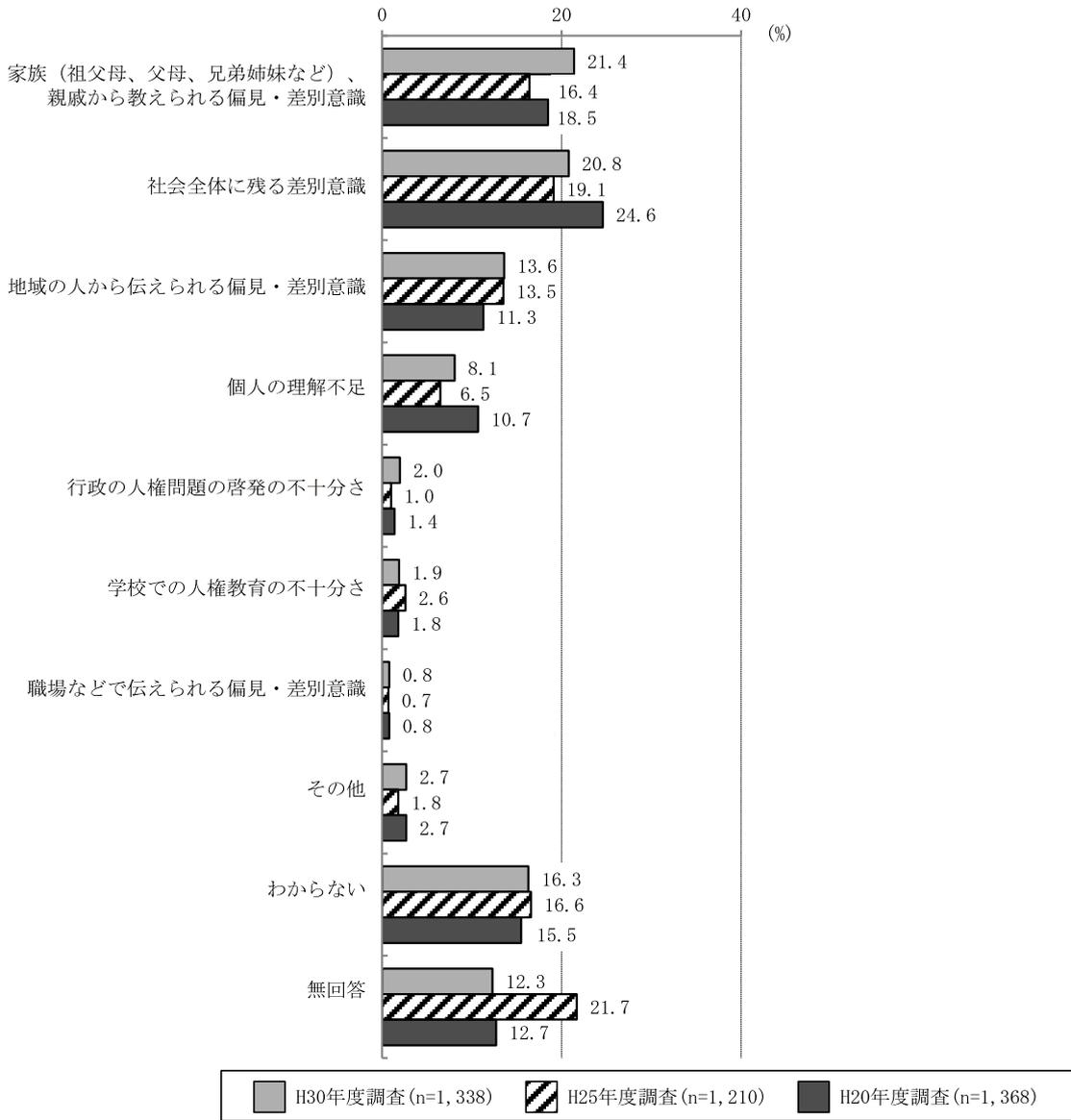
部落差別などの同和問題に関する人権上の問題についてみると、「結婚問題での周囲からの反対があること」が31.8%で最も高く、次いで「いわゆる同和地区への居住の敬遠があること」(25.6%)、「差別的な言動があること」(18.2%)の順となっている。一方、「特に起きているとは思わない」が11.4%、「部落差別などの同和問題を知らない」が1.9%、「わからない」が19.4%となっている。

参考 「部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)」2016(平成28)年12月施行

(2) 部落差別などの同和問題が生じる原因や背景として思い当たる事柄

■「家族、親戚から教えられる偏見・差別意識」が最も高く、次いで「社会全体に残る差別意識」、「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」が続く。

問17-1 部落差別などの同和問題が生じる原因や背景として、あなたが一番思い当たるのは次のどれですか。(〇は1つ)



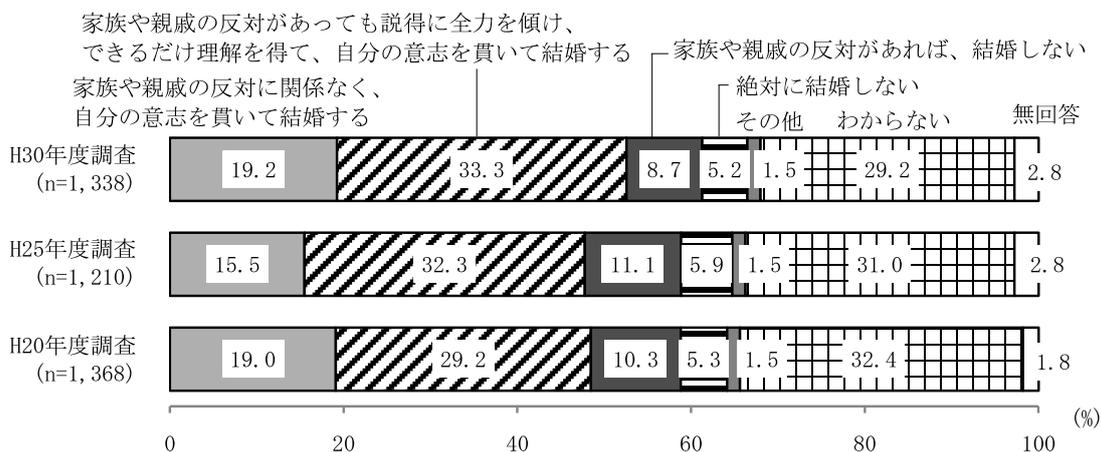
部落差別などの同和問題が生じる原因や背景をみると「家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)、親戚から教えられる偏見・差別意識」が21.4%で最も高く、次いで「社会全体に残る差別意識」(20.8%)、「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」(13.6%)の順となっており、「わからない」も16.3%と高くなっている。

(3) 結婚相手がいわゆる同和地区の人であるとわかった場合の行動

■『自分の意志を貫いて結婚する(計)』は5割を超え H25 年度調査よりも高く、「家族や親戚の反対があれば、結婚しない」は1割に満たない。

問17-2 結婚についてお聞きします。

(1) たとえば、あなたが結婚しようとする相手が、同和地区の人であるとわかった場合、あなたは どうされますか。(〇は1つ)



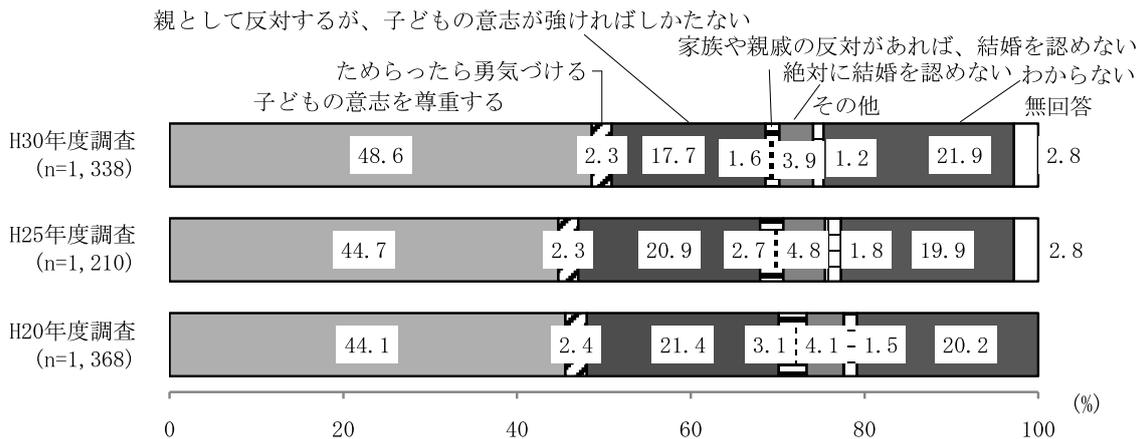
結婚相手がいわゆる同和地区の人であるとわかった場合の行動をみると、「家族や親戚の反対があっても説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意志を貫いて結婚する」が33.3%で最も高く、次いで「家族や親戚の反対に関係なく、自分の意志を貫いて結婚する」が19.2%となっており、これらを合わせた『自分の意志を貫いて結婚する(計)』は52.5%となっている。これに対し、「家族や親戚の反対があれば、結婚しない」が8.7%、「絶対に結婚しない」が5.2%となっており、これらを合わせた『結婚しない(計)』は13.9%となっている。

(4) 子どもの結婚相手がいわゆる同和地区の人であるとわかった場合の行動

■「子どもの意志を尊重する」、「ためらったら勇気づける」の賛成意見が半数を占め、「親として反対するが、子どもの意志が強ければしかたない」の意見が17.7%、『結婚を認めない（計）』の反対意見は、5.5%となっている。

問17-2 結婚についてお聞きします。

(2)たとえば、あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどのようにされますか。(〇は1つ)



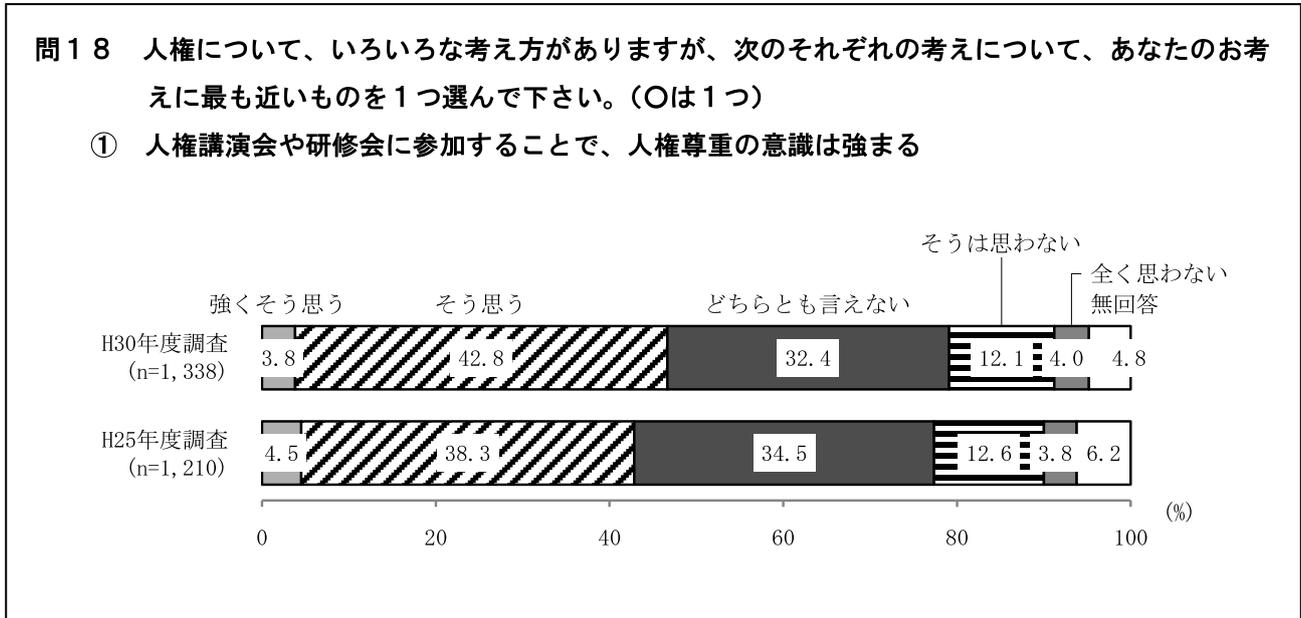
子どもの結婚相手がいわゆる同和地区の人であるとわかった場合の行動をみると、「子どもの意志を尊重する」が48.6%で最も高く、これに「ためらったら勇気づける」(2.3%)を合わせた『賛成(計)』が50.9%となっている。これに対し、「親として反対するが、子どもの意志が強ければしかたない」が17.7%で、「家族や親戚の反対があれば、結婚を認めない」(1.6%)、「絶対に結婚を認めない」(3.9%)を合わせた『反対(計)』は5.5%で、「わからない」が21.9%となっている。

### 第3章 今後の人権教育・啓発のあり方に関する意識

#### 1 人権についての考え方

(1) 人権講演会や研修会に参加することで、人権尊重の意識は強まる

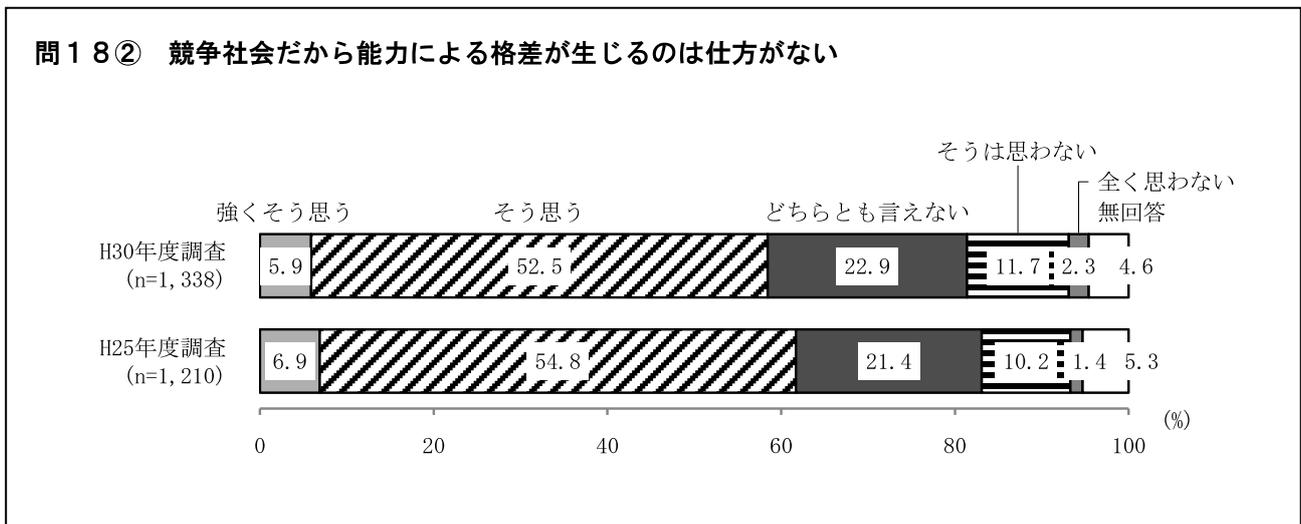
■「人権講演会や研修会に参加することで、人権尊重の意識は強まる」と考える人は46.6%となっている。



「人権講演会や研修会に参加することで、人権尊重の意識は強まる」についての考えをみると、『そう思う(計)』(「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた割合。以下同様)が46.6%と『そうは思わない(計)』(「全く思わない」と「そうは思わない」を合わせた割合。以下同様) (16.1%)を上回っており、「どちらとも言えない」が32.4%となっている。

(2) 競争社会だから能力による格差が生じるのは仕方がない

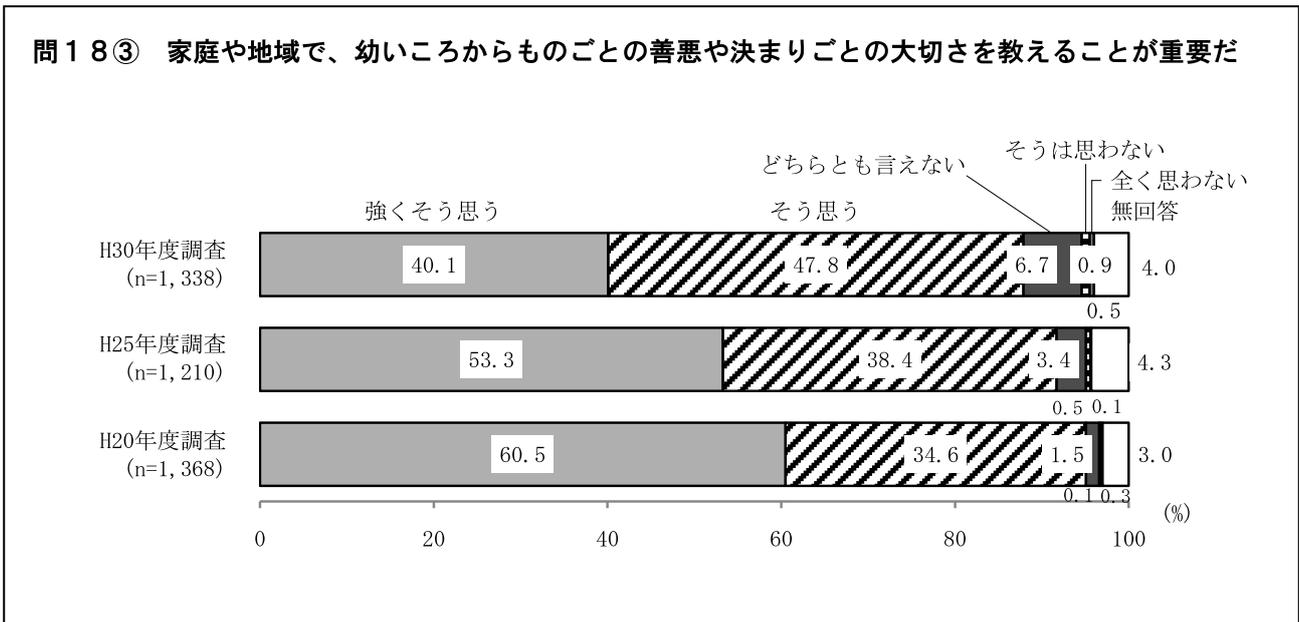
■「競争社会だから能力による格差が生じるのは仕方がない」と考える人は、H25年度調査より若干、低くなってはいるが、58.4%となっている。



「競争社会だから能力による格差が生じるのは仕方がない」についての考えをみると、『そう思う(計)』が58.4%と『そうは思わない(計)』(14.0%)を上回っており、「どちらとも言えない」が22.9%となっている。

(3) 家庭や地域で、幼いころからものごとの善悪や決まりごとの大切さを教えることが重要だ

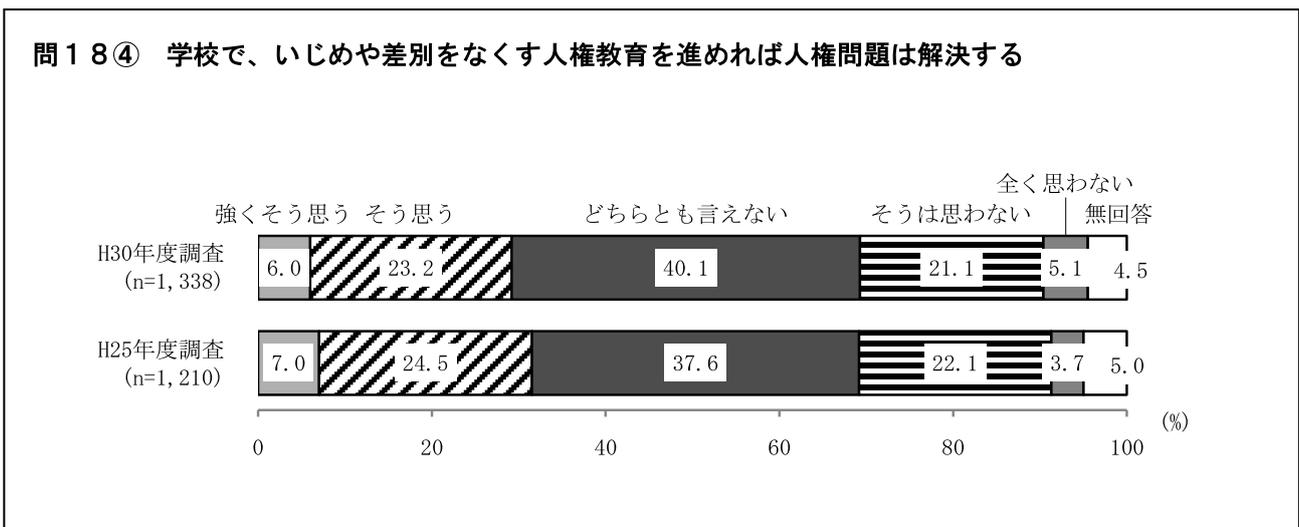
■「家庭や地域で、幼いころからものごとの善悪や決まりごとの大切さを教えることが重要だ」と考える人は87.9%となっている。



「家庭や地域で、幼いころからものごとの善悪や決まりごとの大切さを教えることが重要だ」についての考えをみると、『そう思う (計)』が87.9%と『そうは思わない (計)』(1.4%)を大きく上回っており、「どちらとも言えない」が6.7%となっている。

(4) 学校で、いじめや差別をなくす人権教育を進めれば人権問題は解決する

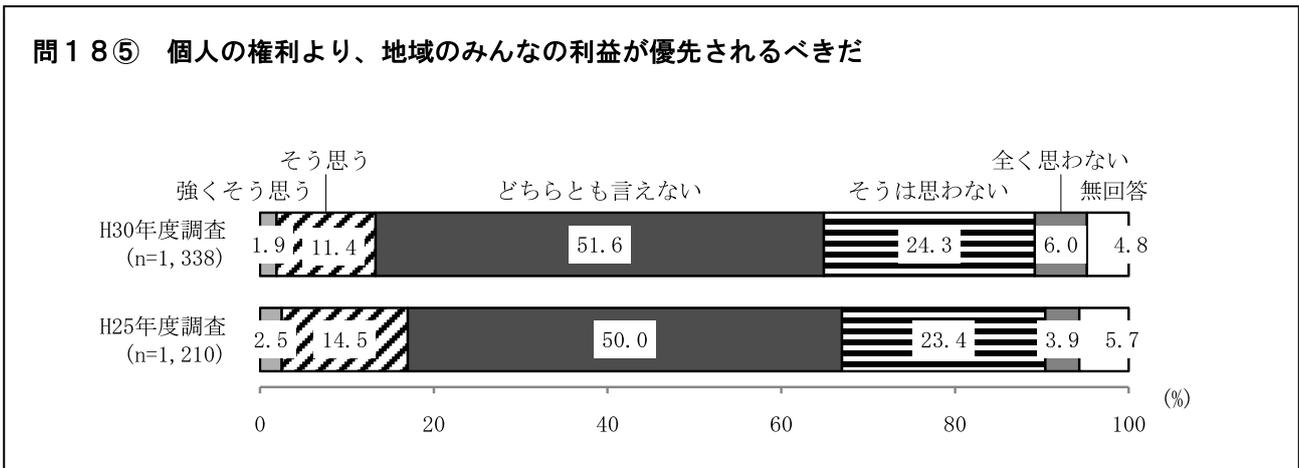
■「学校で、いじめや差別をなくす人権教育を進めれば人権問題は解決する」と考える人は29.2%となっており、「どちらとも言えない」とする人が最も高くなっている。



「学校で、いじめや差別をなくす人権教育を進めれば人権問題は解決する」についての考えをみると、『そう思う (計)』が29.2%と『そうは思わない (計)』(26.2%)を上回っているが、「どちらとも言えない」が40.1%で最も高くなっている。

(5) 個人の権利より、地域みんなの利益が優先されるべきだ

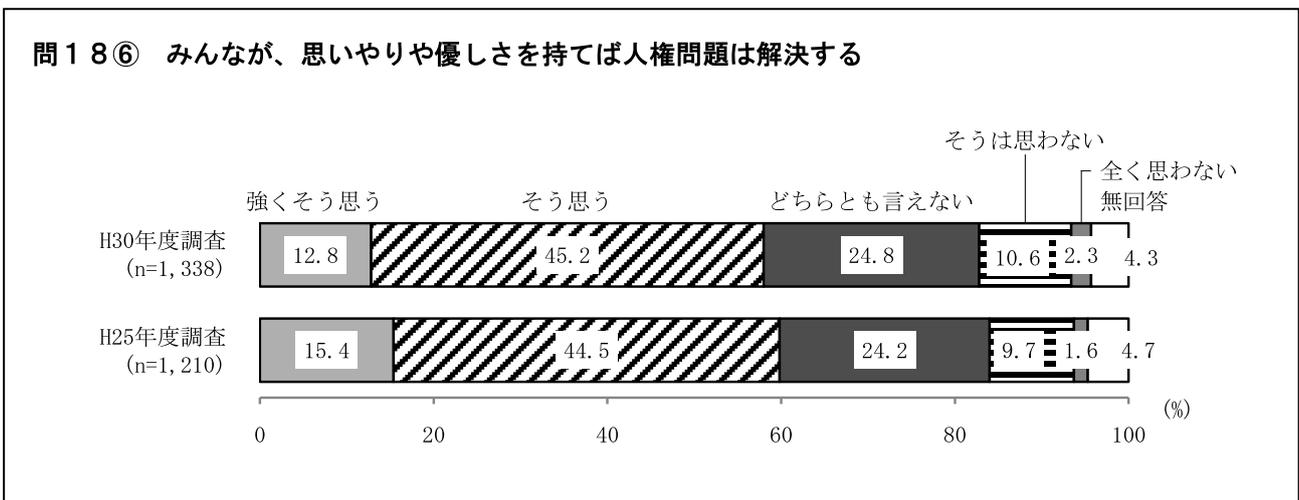
■「個人の権利より、地域みんなの利益が優先されるべきだ」については、「どちらとも言えない」とする人が51.6%となっている。



「個人の権利より、地域みんなの利益が優先されるべきだ」についての考えをみると、『そうは思わない(計)』が30.3%と『そう思う(計)』(13.3%)を上回っているが、「どちらとも言えない」が51.6%で最も高くなっている。

(6) みんなが、思いやりや優しさを持てば人権問題は解決する

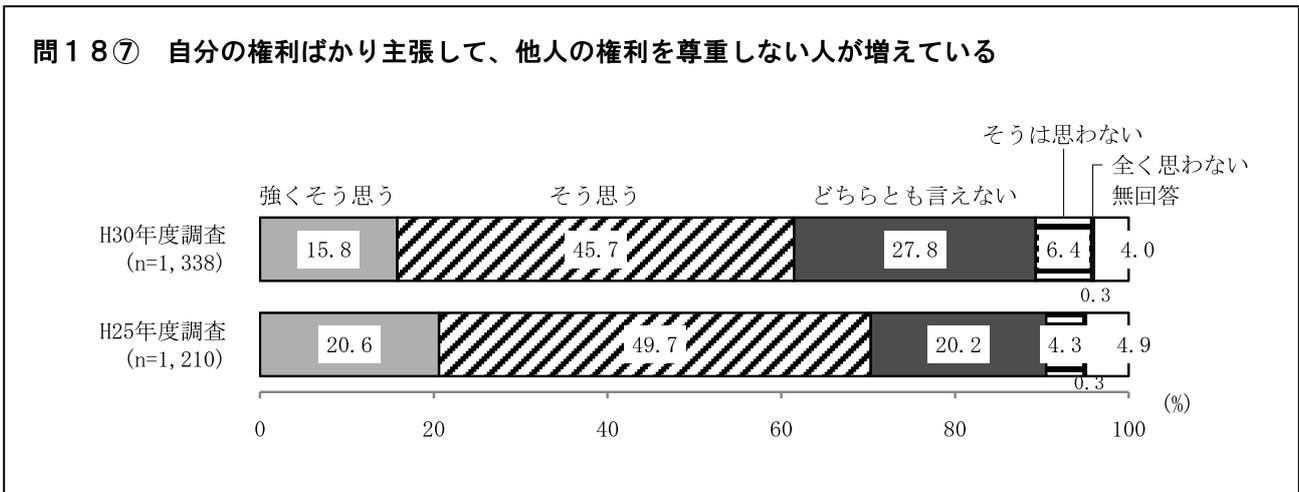
■「みんなが、思いやりや優しさを持てば人権問題は解決する」と考える人は58.0%となっている。



「みんなが、思いやりや優しさを持てば人権問題は解決する」についての考えをみると、『そう思う(計)』が58.0%と『そうは思わない(計)』(12.9%)を大きく上回っており、「どちらとも言えない」が24.8%となっている。

(7) 自分の権利ばかり主張して、他人の権利を尊重しない人が増えている

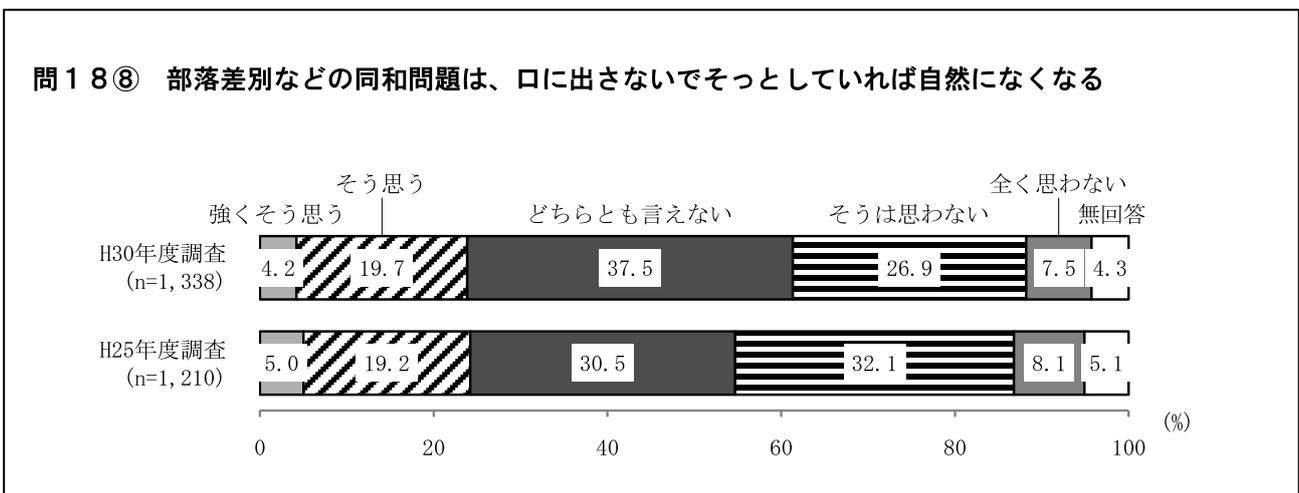
■「自分の権利ばかり主張して、他人の権利を尊重しない人が増えている」と考える人は61.5%となっているが、H25年度調査よりも8.8ポイント低くなっている。



「自分の権利ばかり主張して、他人の権利を尊重しない人が増えている」についての考えをみると、『そう思う (計)』が61.5%と『そうは思わない (計)』(6.7%)を上回っており、「どちらとも言えない」が27.8%となっている。

(8) 部落差別などの同和問題は、口に出さないでそっとしていれば自然になくなる

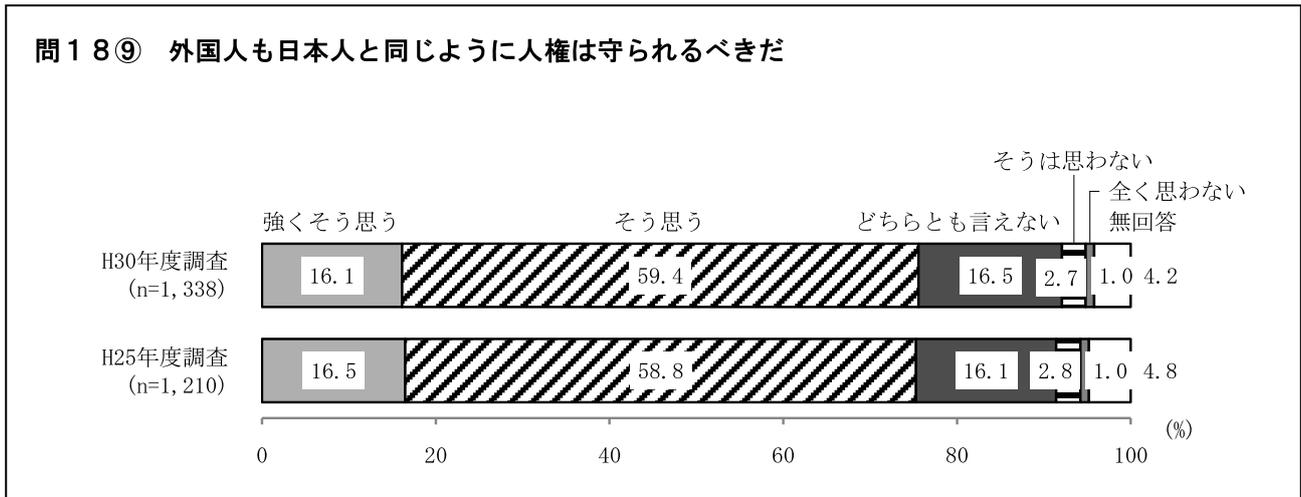
■「部落差別などの同和問題は、口に出さないでそっとしていれば自然になくなる」と考えない人が34.4%で、肯定する『そう思う (計)』の23.9%を10.5ポイント上回っている。



「部落差別などの同和問題は、口に出さないでそっとしていれば自然になくなる」についての考えをみると、『そうは思わない (計)』が34.4%と『そう思う (計)』(23.9%)を上回っているが、「どちらとも言えない」が37.5%で最も高くなっている。

(9) 外国人も日本人と同じように人権は守られるべきだ

■ 「外国人も日本人と同じように人権は守られるべきだ」と考える人が75.5%となっている。

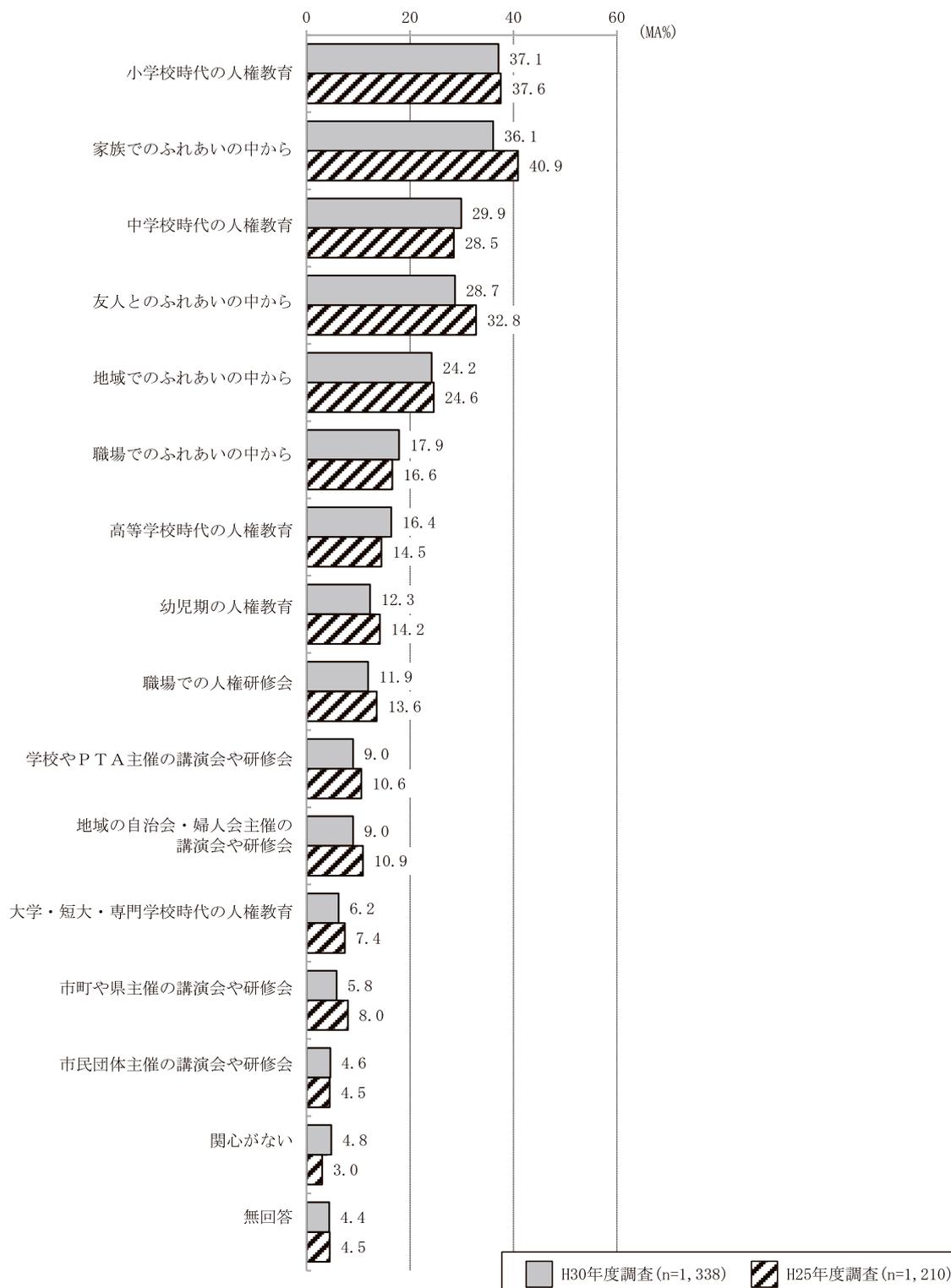


「外国人も日本人と同じように人権は守られるべきだ」についての考えをみると、『そう思う（計）』が75.5%と『そうは思わない（計）』（3.7%）を上回っており、「どちらとも言えない」が16.5%となっている。

## 2 人権尊重の考え方に強い影響を受けたもの

- 「小学校時代の人権教育」、「家族でのふれあいの中から」が3割半ばで、「中学校時代の人権教育」、「友人とのふれあいの中から」が約3割で続いている。

問19 あなたが、人権尊重の考えについて強く影響を受けたと思われるものは次のどれですか。当てはまるものを選んで下さい。(〇はいくつでも)

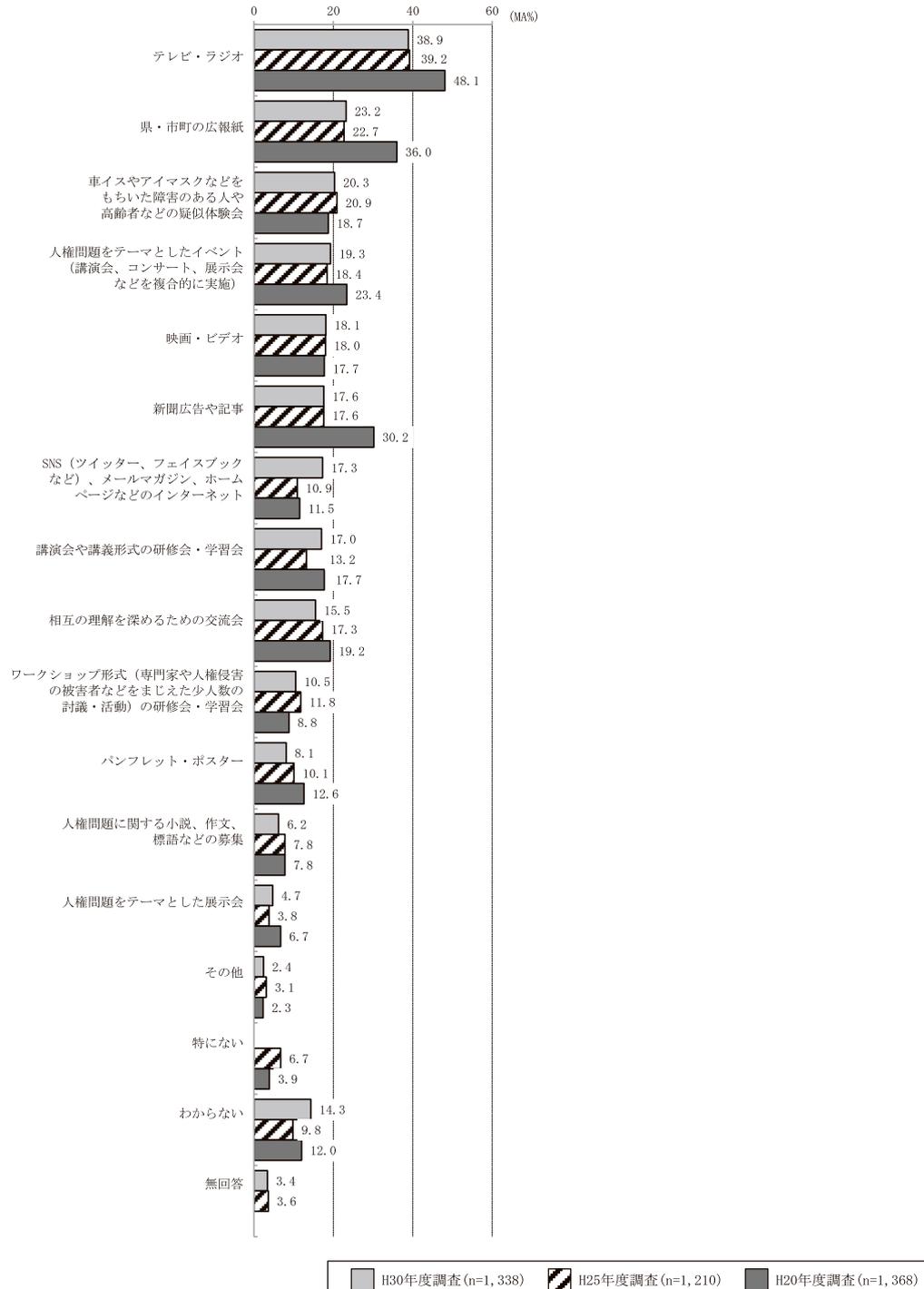


人権尊重の考え方に強い影響を受けたものをみると、「小学校時代の人権教育」が37.1%で最も高く、次いで「家族でのふれあいの中から」(36.1%)、「中学校時代の人権教育」(29.9%)の順となっている。

### 3 効果的な人権啓発活動

■これまでの調査同様、上位2項目である「テレビ・ラジオ」、「県・市町の広報紙」は効果的ととらえられている。

問19-1 人権啓発を進めるために、あなたは、県民に対してどのような啓発活動が効果的と思われますか。(〇はいくつでも)



効果的な人権啓発活動をみると、「テレビ・ラジオ」が38.9%で最も高く、次いで「県・市町の広報紙」(23.2%)、「車イスやアイマスクなどをもちいた障害のある人や高齢者などの疑似体験会」(20.3%)、「人権問題をテーマとしたイベント(講演会、コンサート、展示会などを複合的に実施)」(19.3%)、「映画、ビデオ」(18.1%)、「新聞広告や記事」(17.6%)の順となっている。

県民の人権意識

— 平成30年度 人権に関する県民意識調査の概要 —

平成31年3月 発行

発行 兵庫県健康福祉部社会福祉局人権推進課

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

TEL 078-362-9135 FAX 078-362-4266

公益財団法人 兵庫県人権啓発協会

〒650-0003 神戸市中央区山本通4丁目22番15号

TEL 078-242-5355 FAX 078-242-5360